

消化器外科





岡山医療センターの外科は消化器外科、乳腺・甲状腺外科、腎移植外科にわかれて診療をおこなっています。消化器外科には6名のスタッフがおり2015年より臓器別診療体制をとり各分野に特化した専門性の高い外科治療を目指しています。上部消化管外科を担当するのは野崎と松村、下部消化管外科を担当するのは國末と瀬下、肝胆膵外科を担当するのは太田と久保です。現在は3名の後期研修医が在籍しそれぞれのチームに加わって診療を行っています。また、腹部の緊急を要する疾患(腹部救急外科)に対しては夜間・休日は当番制で24時間対応しております。それでは各分野での主な治療内容・スタッフを紹介します。

上部消化管外科(野﨑・松村)

上部消化管外科で担当するのは主に食道と胃の疾患です。年間の手術件数は最近5年間の平均で胃癌が50例、 食道癌が5例程度です。

【胸腔鏡下食道癌手術】

食道はのどから胃まで食事を送るチューブのような消化管です。食道癌は肋骨に囲まれた胸の中に発生します。そのため以前は肋骨を切って、大きく胸を開いて手術していました。当院では胸腔鏡手術(内視鏡を使った傷の小さな手術)で癌の切除を行っていますので、肋骨を切ることなく、痛みが少ない体に優しい手術ができるようになりました。野﨑は食道の手術を専門で行う資格(食道外科専門医)を取得しています。

【腹腔鏡下胃癌手術】

胃癌に対しては低侵襲な腹腔鏡下手術を積極的に導入しています。胃癌治療ガイドラインに沿って Stage I の症例を腹腔鏡手術の適応としており、胃の下側 2/3 程度を切除する幽門側胃切除だけでなく、噴門側胃切除や胃全摘といったやや難易度の高い術式も腹腔鏡での手術が可能です。ほとんどの手術では再建も腹腔内で行っているため、切除した胃を取り出すために臍の創のみ 3-4 cm の切開となりますが、その他は 1 cm 程度の小さな創での手術が可能です。このため、開腹手術に比べて術後の疼痛が軽いことや腸蠕動の回復が早いこと、癒着が少ないことなどのメリットがあります。

【機能温存手術】

以前は胃の入り口付近に小さな癌ができても胃を全摘していました。これは逆流防止弁(噴門)が手術で切除されるため、胃を残しても術後にひどい逆流性食道炎が起きて患者さんが大変だったからです。当院ではこのような症例に対して、腹腔鏡手術で胃の上側1/2だけを切除し、逆流防止弁も作成する手術(噴門側胃切除と観音開き法再建)を行っています。胃が残りますので食事摂取量が多く逆流性食道炎も予防できます。

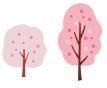
【食道胃接合部癌手術】

食道と胃の中間(食道胃接合部)にできる癌が最近増えています。これは食事が欧米化したことや肥満の人が増えたことと関係があるといわれています。食道癌なら胸の手術、胃癌なら腹の手術とはっきり分けることができますが、この癌は胸部にも腹部にも癌が広がっているため、より専門性の高い技術や知識が必要です。当院ではこのような癌に対しても専門の医師が胸腔鏡と腹腔鏡を組み合わせた体に優しい切除手術を行っています。

【その他の腹腔鏡手術】

胃粘膜下腫瘍はリンパ節郭清の必要がないため、症例によっては術中に内視鏡で腫瘍に沿って切離ラインをつけた後に腹腔鏡を用いて病変の切除を行う腹腔鏡内視鏡合同胃局所切除(LECS)を行っており、良好な成績を収めています。また、胃食道逆流症(GERD)や食道裂孔ヘルニアなどの食道良性疾患に対しても腹腔鏡手術を行っています。





下部消化管外科(國末・瀬下)

下部消化管外科で担当するのは主には大腸疾患(主に大腸癌)と肛門疾患です。

【大腸癌手術】

大腸癌は近年増加傾向にあります。大腸癌の早期病変に対しては消化器内科で内視鏡的治療(内視鏡的粘膜切除術EMRや内視鏡的粘膜下層剥離術ESD)が行われます。内視鏡的治療の適応外となった症例は外科的治療の対象となります。大腸癌手術は開腹手術と腹腔鏡手術に大きく分かれますが当院では約9割で腹腔鏡手術を行っています。腹腔鏡手術には創が小さいため術後の回復が早く、癒着、痛みが少ないといったメリットがあります。当院は結腸癌に対し2003年より直腸癌に対しては2006年より腹腔鏡手術を導入しています。最近では年間約90例の大腸癌症例があり、現在までに800例以上の腹腔鏡手術を経験しています。最新の3D内視鏡システムを導入しており精度の高い手術を心がけています。また、國末、瀬下は日本内視鏡外科学会の技術認定医(大腸)を取得しています。。

【直腸癌に対する肛門温存手術】

肛門に近い直腸癌に対して直腸切断術(肛門をくりぬく)を行い永久人工肛門造設する手術が従来行われてきましたが、約10年前から括約筋間直腸切除術(ISR)による肛門温存手術が積極的に行われるようになりました。当院では2009年より適応となる患者さんに腹腔鏡下ISRを行っています。

【進行直腸癌に対する放射線治療、抗がん剤治療を駆使した集学的治療】

進行直腸癌でそのまま手術を行うと剥離面にがんが残って

しまうことがあります。CTやMRI検査でそのような可能性がある場合には術前に化学療法や化学放射線治療を行い腫瘍を小さくしてから直腸手術を行うようにしています。消化器内科医、放射線科医と連携しながら患者さんにベストな治療を選択しています。

【人工肛門造設】

直腸癌や憩室穿孔などの手術で永久的あるいは一時的な人工肛門(ストーマ)を造設することがあります。ストーマを作られた患者さんが快適な生活を送れるよう専門的な知識を持つ皮膚排泄ケア認定看護師(WOC)(松田・溝内)がサポートしています

【肛門疾患】

肛門疾患の治療も行っています。痔核手術、また直腸脱に 対しては経肛門的手術と腹腔鏡下直腸挙上手術も行ってい ます。



肝胆膵外科(太田・久保)

肝胆膵外科とは、肝臓・胆道(胆嚢・胆管)・膵臓疾患の 手術を担当するものです。消化器外科の中でも難易度の高 い手術が多く、専門的な知識や技術が必要な領域ですが、 当院は日本肝胆膵外科学会が設定した高難易度肝胆膵 外科手術を年間30症例以上安全に行っている高度技能医 専門医制度認定修練施設(B)に認定されています。太田 は、日本肝胆膵外科学会高度技能指導医に認定されてい ます。難易度の高い手術であっても、確かな技術にて安心 して手術を受けていただけます。

【肝切除】

肝細胞癌・胆管細胞癌などの原発性肝癌や、大腸癌肝転移などの転移性肝癌に対して、肝臓の脈管構造に応じた系統的肝切除(肝亜区域切除・区域切除・葉切除)を行っています。近年では身体に負担の少ない腹腔鏡下肝切除術も導入し、手術適応のある方々に積極的に応用しています。通常の開腹手術と共に、合併症も少なく良好な成績を収めています。

【膵切除】

膵頭部領域の疾患に対しては膵頭十二指腸切除を、膵体 尾部領域の疾患に対しては膵体尾部切除を行っています。脈 管の合併切除再建を含む膵頭十二指腸切除術は消化器外 科手術の中でも最も難易度の高い手技の一つですが、全国



集計に比べて膵液瘻等の合併症が少なく、手術を受けられた 患者さんにも喜んでいただいています。肝切除と同様に、膵 体尾部切除には積極的に腹腔鏡下手術を導入しています。

【胆道の悪性腫瘍】

肝切除もしくは膵切除を併用した手術を行っています。

【胆石などの良性疾患】

主に腹腔鏡下胆嚢摘出術を行っており、術後2~3日で 退院できるプログラムを組んでいます。急性胆嚢炎は発症後 早期であれば腹腔鏡下手術が可能です。



腹部救急外科

当院外科では年間約800件の手術を行っており、腹部の緊急手術はそのうちの約15%を占めています。急性胆嚢炎や急性虫垂炎、血流障害を伴う腸閉塞、ヘルニア嵌頓、消化管穿孔などの手術を行っています。急性胆嚢炎、急性虫垂炎などの手術は可能な限り腹腔鏡手術で対応しています。腹部救急疾患は腹痛、嘔吐で発症することが多く診療

所や医院を受診し当院へ紹介となるケースも少なくありません。地域の中核病院としての役割を果たすべく紹介患者は原則全例受け入れるようにしており、スタッフと後期研修医のペアが24時間体制で緊急対応を行っています。多様な基礎疾患をもつ患者さんに対しても他科と連携しながら周術期の対応にあたっています。

	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年
胆囊炎、総胆管結石症	38	51	35	39	25
急性虫垂炎	32	30	26	39	28
腸閉塞	29	21	23	15	32
ヘルニア嵌頓	9	6	2	11	1
胃•十二指腸潰瘍穿孔	6	2	8	5	7
小腸•大腸穿孔	14	16	19	20	14
非閉塞性腸管虚血	3	2	0	2	3
腸重積	0	1	0	2	3
外傷	0	1	1	2	1
その他	8	6	10	6	12
緊急手術件数(割合)	140(17.0%)	136(16.3%)	124(15.8%)	140(16.1%)	126(15.9%)
全手術件数	820	832	781	866	790







スタッフ紹介(分野・資格)

太田 徹哉(統括診療部長) 肝胆膵

日本外科学会指導医•専門医

日本消化器外科学会指導医•専門医

日本肝胆膵外科学会高度技能指導医

國末 浩範(外科医長) 下部消化管

日本外科学会指導医•専門医

日本消化器外科学会指導医•専門医

日本大腸肛門病学会指導医•専門医

日本内視鏡外科学会技術認定医(消化器•一般 大腸)

日本腹部救急医学会認定医、教育医

野﨑 功雄(外科医長) 上部消化管

日本外科学会指導医•専門医

日本消化器外科学会指導医•専門医

日本食道学会食道科認定医•食道外科専門医

日本内視鏡外科学会技術認定医(消化器•一般 胃)

da Vinci Certificate(ロボット手術)

Robo-Doc Pilot認定医(国内B級)

瀬下 賢(外科医師) 下部消化管

日本外科学会指導医•専門医

日本消化器外科学会指導医•専門医

日本消化器内視鏡学会指導医•専門医

日本内視鏡外科学会技術認定医(消化器•一般 大腸)

松村 年久(外科医師) 上部消化管

日本外科学会専門医

久保 孝文(外科医師) 肝胆膵

日本外科学会指導医•専門医

日本消化器外科学会指導医•専門医

日本消化器病学会指導医•専門医

日本大腸肛門病学会指導医•専門医

日本肝臟学会指導医•専門医

日本胆道学会認定指導医

日本腹部救急医学会認定医、教育医



後列左より 國末 浩範 医長 瀬下 賢 医師 久保 孝文 医師 太田 徹哉 統括診療部長 松村 年久 医師 野﨑 功雄 医長前列左より 小西 貴子 医師 向原 史晃 医師 塩入 寛太 医師

